

スポーツ大学生の喫煙に対する意識・実態調査

石田 裕士 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中藪 伸二

キーワード：スポーツ大学生、喫煙者率、禁煙、環境要因

1. 緒言

びわこ成蹊スポーツ大学では、2003年の開学当初より学内全面禁煙という取り組みを実施している。びわスポ大はスポーツ大学であり、スポーツや健康に関心を持っている学生が多いと考えられる。喫煙者の喫煙開始時期は20歳前後が最も多いといわれており、大学生の時期に喫煙を開始する学生が多いと考えられる。大学生にとって1日の大半を過ごす場であるキャンパスが全面禁煙であることは、喫煙の防止に大きな影響を及ぼすだろう。また、親の喫煙が子どもにどのような影響があるのだろうか。喫煙者の初めての喫煙と現在の喫煙理由をふまえて関係を調べる。

本研究では、これらのことをふまえた上で、スポーツ大学生の喫煙に対する意識と実態について調べていくことにする。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、びわスポ大の学生に無記名の自己評価による質問紙調査を実施した。1つ目のアンケートは、2010年の1~4年次生の回答数は1244名。質問紙は、厚生省(喫煙と健康問題に関する実態調査、1999)などを参考に作成した。

2つ目のアンケートは、2010年12月において、喫煙者の友人や大学周辺で喫煙していた学生に無記名の自己記入による質問紙調査を実施した。回答数は27名。

「喫煙者」の定義は、これらの先行研究

から1ヵ月に1本以上喫煙する者とした。

3. 結果と考察

びわスポ大における喫煙者率は年々減少傾向にある。しかし、20歳になり法律で喫煙が認められるようになると喫煙者率が増加している。親の喫煙が子どもに与える影響は、両親が喫煙者だった場合は他に比べて、多少喫煙者になる子どもが多いという結果になった。学内・学外で喫煙している学生を見つけた時に、どのような行動をとるかも調査した。学内では、「注意する」と答えた学生が48%という結果であった。しかし、学外で「注意する」と答えた学生はわずか17%という結果であった。学外では「無視する」と答えた学生は42%であった。

4. まとめ

びわスポ大における禁煙ポリシーの実施には効果があるといえる。ただし、喫煙者・非喫煙者ともにキャンパス外においても禁煙ポリシーを浸透させること、喫煙者については禁煙に向かわせることなどが今後の課題としてあげられる。

参考文献

厚生省(1999) 平成10年度喫煙と健康に関する実態調査. 厚生省.

安井加奈子、中藪伸二 他 (2010) スポーツ大学生の喫煙に対する意識・実態調査. 第7回日本教育保健学会講演集：88-89